

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

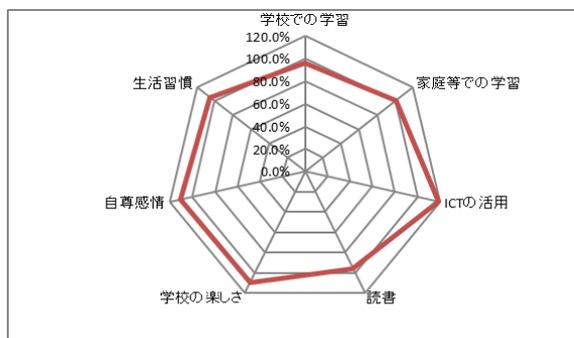
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	3つの領域とも全国平均正答率を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「文脈に即して漢字を正しく書く」問題	
	努力が必要な問題	「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	4つの領域とも全国平均正答率を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」問題	
	努力が必要な問題	「自然数を素数の積で表すことができる」問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	4つの領域とも全国平均正答率を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる」問題	
	努力が必要な問題	「日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを授業中に活用していると答えた生徒の割合は、非常に高い。 ・自尊感情が高い生徒の割合は、非常に高い。 ・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表してた生徒の割合は少なかった。授業の中で、自分の考えを発表する場を多く設定する。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 考える時間の確保と班活動の充実により、学ぶ力をアップさせていく。
- 「わかる」から「できる」になるための課題の工夫を行う。
- 計算コンクール、英単コンクールなど、達成感が味わえる基礎学力向上の取組を計画的に行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 生活習慣を見直し、よりよい生活習慣になるような機会を設定する。
- 家庭学習の習慣を身に着けるよう、学級活動や学年集会等で語る場を設定する。